

# 公民館訪問NEWS



左の QR コードから、閲覧・ダウンロードができます。

## 明和公民館 ～寒の飴づくり講座～

1月20日(土)、只見町の明和公民館で行った「寒の飴づくり講座」を訪問しました。

今回の講座には、20代から80代まで幅広い年齢層からの受講がありました。年代関係なく、楽しそうに交流しながら飴を作る皆さんの笑顔が印象的でした。

飴作りの後は、「あめよばれ」の始まりです。講師の三瓶さんが作った飴を味わいながら、世間話に花を咲かせていました。

### 寒の飴

南会津西部では、もち米と大麦から水あめを作り、近隣にふるまう「あめよび」「あめよばれ」という風習があります。

寒の水で作ったあめをなめると丈夫になるといわれ、仕込みの時期には近隣の女性で集まり、できたてのあめを振る舞いあう、今でいう女子会が毎日のように行われていたそうです。



きれいな琥珀色の飴  
2杯目は搾りかすのもち米を入れて食べます



飴の作り方は義母から教えてもらいました。昔ながらの作り方だと、できあがるのに2～3日かかります。

守るところは守る、伝えることは伝えるということを大切に、手軽に作れるようにアレンジしています。

<講師 三瓶さん>



### <受講者の方から>

ばあちゃんには、飴づくりを覚えてもらう機会がありませんでした。年を重ねると、こういうことに興味をもつものですね。



### <受講者の方から>

子供の頃、作るのを手伝っていたので、とても懐かしいです。絞る仕事が私の役割でした。

### <受講者の方から>

「あめよばれ」のファンです。自分でも作ってみたいと思い参加しました。



只見町では、町の「ひと・もの・こと」について学ぶ「只見学」を充実させることを公民館事業の1つの重点とし、講座を企画しているそうです。

今回の講座を企画した明和公民館の齋藤さんは、「町の伝統文化の継承につながればと思いましたが、今では飴を作れる人が少なくなり、講師を考えるのも苦労しました。今回参加してくださった方が皆、またやってみたくてくれたので、また来年度も開催したいです。」と話してくださいました。

只見町に「あめよばれ」という風習があるように、昔から人々は、人と人との結びつきを大切にして生活してきました。伝統文化の継承の機会、人々の集いの機会の提供を公民館で担っていけるといいですね。